

笑殺集団リリパット・アーミー第5回公演 レディモルフエウス

1988年10月3日(月)〜6日(木) 扇町ミュージアムスクエア

キャスト

びゅーたん... わかきえふ
湯田神父... 中島らも
イブ... 牧野恵美(賣名行爲)
蜂須賀博士... 升毅(賣名行爲)
流教授/老人A... 立原啓裕(賣名行爲)
母/老人B... 桂吉朝
物売り/老人C... ひさうちみちお
雄一郎... 木本雄一郎
気ちがいインドオカマ... キッチュ
婆さん/記者... 鮫肌文珠
空海... ガンジー石原

スタッフ

作・演出... 中島らも
照明... わかきえふ
音響... スタッフ・ステーション
イラスト... 吉本たもつ
宣伝美術... ひさうちみちお
効果協力... 杉崎真之助
協賛... 名城アパカンパニー(株)
提携... カネテツデリカフーズ株式会社
扇町ミュージアムスクエア

笑殺集団リリパット・アーミー第6回公演 スプーンの上に天使何人とまれるか

1989年5月26日(金)〜28日(日) 扇町ミュージアムスクエア
1989年5月30日(火)〜6月1日(木) 新宿THEATER/TOPS

キャスト

トマス・アクイナス/ケルビム/天草四郎/ホステスB/ちんち
くりん... わかきえふ
フォーク/編集者/ミカエル/恐いもの知らず/タクワン食え
食え男... 中島らも
ルシファー/大家/天草三郎/ホステスA
... 牧野恵美(賣名行爲)
バンク/ガブリエル/店長/イジイジ/下品/言いまちがい
... 升毅(賣名行爲)
編集者/神の声/店長/イジイジ/ほんまの話/肩もんでちよ
... 立原啓裕(賣名行爲)
新内/ラファエル/たいこ持ち/途中おわせ/肩もんでちよ
... 桂吉朝
アルベルツ・マグヌス/天使業者/爪切り屋/セラピム/オー
ストラリア原住民・アボリジニのピッチャー
... ひさうちみちお

スタッフ

キックロップス/ハニエル/デビル一号/病氣持ち/テレキネ
シス/タクワン・バリボリ男
... 木本雄一郎
作家/カマエル/気狂いインドオカマ/おぼはん/ほんまの話
... キッチュ
婆/ザディケル/念力男/小豆洗い
... 鮫肌文珠
坊主(西行)/トロネ/レフェリー
... ガンジー石原
スーパーデビル... ゲスト

※役によってダブルキャストあり

「リリパ」という略語が生まれる前の事 松尾貴史

阪神タイガースが優勝した日「コント」の収録を終えた中島らもと私は、大阪の東天満にあった旧よみうりテレビの社屋から梅田方面に向かっていた。

「らもさん、こんな日はどこ行ってもいいですけど、大阪中がフリーガンになってるんですから」

「いや、こんな時にこそ、思いっきり閑な店が一軒だけあるよ...」

私は、東通り辺りの「D」という、口髭の、髪の薄いマスターがいる店に連れ込まれた。吉田カツのマッチョなイラストの飾られた小さなバーである。らもの言葉に嘘はなかった。

「あーら、らもちゃん、いらっしやーいん」

おしほりをカウンター越しにみながら、そのついでにおしほりごと覆いこむように手を握りしめて親愛の情を表明してくるマスター(ママ?)にある種の警戒をしながらも、作り笑顔で「フォーローセスをロックで下さい」と頼む私に、らもがほそりと呟いた。

「劇団をな、やるいかなあーって思てんねん。異業種劇団。コピーライター、学生、デザイナー、ヤンキー、ミュージシャン、映画の宣伝会社の人、雑誌の編集者...」

無謀な事を言う人だと思つた。ヤンキーと学生以外は、忙しそうな人はかりである。そして、わかきえふ以外は、演劇の経験者は皆無だった。

数カ月後、私達は中之島辺りの広告代理店の大部屋で、はねた後のドンチャンだけを楽しみに、稽古に動んでいた。母音しか発音できない広告プランナーのK、「穴」というたった二音節の単語のアクセントがその言葉単独でも直せない編集者のI、アクションはまかせるといふ割には支えてもらいながらの三点倒立すらできない座長のNと、得難い人材たちに混じってのりハールは過酷を極めるようなことは全く無く、それはもう、楽しくて面白くて仕方がなかった。私の今までの人生で、最も笑い死にしようになった時期の一つとなった。

扇町ミュージアムスクエアでの旗揚げ公演は大成功だったが、元教師のらも夫人まで駆り出されて、劇場に入りきれない客を、生徒を扱うがごとく詰め込んだり、笑い声が派手な知り合いに座長が舞台から「島崎さん、うるさいっ」と突っ込んだりしたたばたであつた。

う間の二日間だった。たったの三公演、その時に観たという奇特な約千人は、わずか千円で貴重なものを体験したと言っていたらう。そして、それ以来リリパット・アーミーは、十六年間、カーテンコールでちくわを投げ続けている。認めたくないのだが、私のはまり役は「気狂いインドオカマ」という、妖怪めいたキャラクターである。私が旗揚げからリリパット・アーミーに所属していたおよそ五年間で、印象に残っている役といえはこれしかない。何という青春だろう。悪代官、ボケ老人の元兵士、マルコス大統領、自分、咄家、岡本太郎、患者のおじさん、作家、天使、おぼはん、グリーンクラブ団員と、よくみればほとんどの役はほとんどやっていない。「一番しなのが「気狂いインドオカマ」だとは。この役がいかに重要な役柄かは、言うまでもない。「気狂いインドオカマ登場」ナマステー!」おーっほっほっほっほっほー!

「おかま、五分間程、わけのわからない事(キッチュにまかせろ)をする」他の者を次々とサバ折り「お店来てっー」と叫んで退場」というような内容がほとんどだった。いかにストーリー上欠かせない役かがわかっていただけだ。

もともと「気狂いインドオカマ」道徳を極めたいと思つていた私だが、東京の事務所が所屬が変わってからは、公演参加が物理的に難しくなり、あつという間に十年が過ぎてしまった。

「所屬していた」と書いたが、わかきえふは、「キッチュはまだうちの劇団員やねんかな」と言うのである。本当なのだろうか。退団届を出していないが、銀行の口座も十年出し入れが無ければ消滅するぞ。

実際のところはどうか、私にはわからない。ただ、気狂いインドオカマに変わるリリパットでの当たり役を私が望んでいる事は、確かな事である。そして、前出のバーのマスターが、気狂いインドオカマとは全くの無関係である事も。

(俳優)